

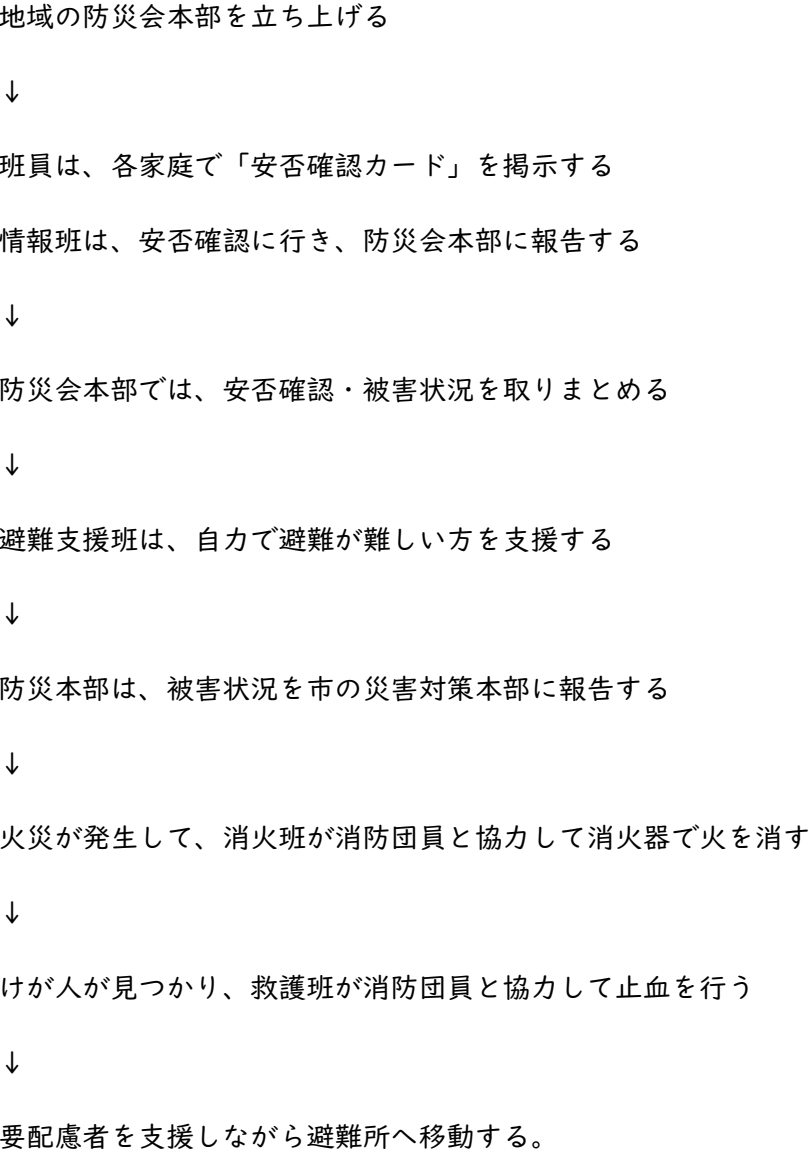
安否確認訓練の設定

ある地域に、５つの班があり、それぞれ１０世帯ずつ合計５０世帯の人たちが住んでいます。これから、白井市で震度６強の地震が起きます。倒壊したり傾く家があります。火事が起きます。けがをする人がいます。できるだけ死者・けが人を出さないように、火事などの被害を少なくするように、協力します。自主防災組織の人たちが中心となって、安否確認をして、避難が必要な人は、助け合いながら避難所まで移動します。

安否確認訓練の役割分担

役割	訓練内容
自主防災組織	
本部長	防災会本部の立ち上げ、総括
副本部長	被害状況把握（ボード記入）
情報班	安否確認、情報収集と報告
避難支援班	自力で避難が難しい方の支援
消火班	火事を知らせ、消火する。
救護班	けが人を知らせ、救護する。
地域に住む人	
班員	安否確認カードを示す。集合してから避難所へ移動する。
負傷者	出血して救護を受ける。
要配慮者	自力で避難することが難しいため、支援を受けながら避難する。 車いす、リアカー、外国人市民
ペット飼い主	ペットを連れて避難する。

安否確認訓練の流れ



自主防災組織における役割分担

災害時に備えて、「情報班」のほか、「消火班」・「救護班」・「避難支援班」等の役割を事前に決めておくことで災害発生時にすぐに活動を開始できます。

安否確認

居室内に閉じ込められたり、倒れた家具の下敷きになっているなど、身動きが取れない人がいないかを地域ぐるみで確認します。安否確認カードや安否確認用タオルなどを玄関やベランダなどに掲示し、班ごとや棟ごとなどの単位で安否確認を行い、自治会・防災会単位でとりまとめます。

避難行動要支援者について

障がいのある方やご高齢の方などは、自力で避難することが難しい場合があります。市では、自力で避難することが難しい方の情報をまとめた名簿「避難行動要支援者名簿」を作成しています。この名簿をもとに、災害時は誰が安否確認の声掛けや避難支援を行うのか事前に決めておき、平時から顔がつながっていると対応がスムーズになります。

ペットの同行避難

白井市では、いくつかの条件を満たしていれば、犬・猫・小鳥その他小動物などのペットを避難所に受け入れます。その条件とは、「飼い主がゲージ等を用意していること」・「餌や水などを用意しており、餌やりや糞尿の処理を飼い主自身が行えること」・「基本的なしつけができていること」・「犬の場合、狂犬病予防接種済票を持っていること」になります。市のホームページで掲載しておりますので、あらかじめ御確認ください。また、いざという時のために普段から親戚や友人など、ペットを預かってくれる人を探しておくことで安心です。

応急救護（圧迫止血法）

今回の訓練では、負傷者に対して圧迫止血法を行います。

出血している傷口をガーゼやタオル・ハンカチなどで直接強く押さえて、しばらく圧迫することで止血を行います。感染予防のため、ビニール袋等で自分の手を保護します。

このような応急手当や負傷者の搬送方法などを普段から確認しておくことが重要になります。

消火器訓練

消火器を使う時は、ピンを抜き、ホースを火元に向け、レバーを強くにぎり、噴射します。噴射距離は約3～5メートルで、噴射時間は約15秒です。屋内で使用する場合は、逃げ道を確保してから使用してください。消火器は初期消火専用です。炎の高さが自分の背丈くらいまでです。少しでも危険を感じたら使わずに安全な場所へ避難して、119番通報をしてください。

火災予防

揺れがおさまった後、ガスの元栓は閉め、電化製品の電源を切って、ブレーカーを落とします。ブレーカーを落とさずにいると、電気が復旧した時に、傷ついたコードやコンセント・家電に電気が流れて、火花が出ることで火災が起こる可能性があります。地震の強い揺れを感知して自動で電気を止める「感震ブレーカー」という装置を自宅に設置しておくことで安心です。ガスのにおいがした場合は火を使わず換気をして室外へ避難してください。

感震ブレーカー

